

2020年は新型コロナウイルス感染拡大で外食産業が落ち込み、農畜産品も価格下落など影響が広がった。天候も恵まれた1年とは言えなかったが、管内JAの取扱高は史上2番目の3,456億円を記録し、十勝農業の底力を示した。

◆管内JA取扱高3,456億円に

畜産部門が2,148億円で全体の62%を占めた。特に酪農は通年で前年を上回る生乳生産を維持した。個体販売額はやや下回ったが、乳価の上昇もあり数字を押し上げた。耕種部門（畑作）は1,308億円。今年は雨や日照の不足が極端で、収量や品質に影響を与えた。

◆コロナ禍需要減 小豆価格が下落

新型コロナの影響で、お土産など和菓子の需要が減り、小豆の価格が下落した。外食産業の落ち込みから、和牛の枝肉価格も下がった。

外国人技能実習生は入国ができず、戦力として期待していた農家は人手の確保に苦労した。



コロナの影響で価格が下落した小豆

◆野上農相が来勝 輸出拡大に期待

野上浩太郎農林水産相が10月に十勝を訪れ、JA中札内村の枝豆工場やJA帯広かわにしのナガイモ洗浄選別施設などを視察。「素晴らしい食材が多く、生産拡大、輸出拡大の可能性が大きいと感じた」と期待を寄せた。



輸出関係の視察を目的に十勝を訪れた野上農水相

◆JA士幌篠原氏ホクレン会長に

6月にJAグループ北海道の役員改選が行われ、ホクレン会長にJA士幌町組合長（当時）の篠原末治氏、JA道中央会副会長にJA十勝清水町組合長（同）の串田雅樹氏が選出。十勝選出の常勤役員が、引き続き道農業界の主要ポストに就いた。

◆農場ツアーにもオンライン活用

コロナにより農業界でもオンライン活用が活発になった。いただきますカンパニー（帯広）はビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」でオンライン農場ツアーを実施。ファームノート（同）もオンラインセミナーに力を入れた。コロナをきっかけに通常の活動に制約が出たが、それぞれ新たな顧客とのつながりづくりに一役買った。



農場ツアーやセミナーもオンライン上で盛んに行われた